

日本人ボランティアによるチュートリアルレッスンをめぐって

和田 礼子

1 ひらがなセッションの目的

留学生センターでは春学期、秋学期の開講前に、ひらがな未習者を対象にひらがなセッションを行っている。受講者の多くは渡日直後の留学生で、このセッションではひらがなの読み書き、日常のあいさつ、教室で教師が使う指示の言葉の導入と練習を行う。

ひらがなセッションの目的は大きく二つに分けられる。一つは日本語コース開講までに文字を習得することで、漢字かな混じり教科書を使った授業にスムーズに移行することができるという点である。ひらがなは一文字が一音を表しておりアルファベットに比べ覚えなければならない文字数も多いため、できれば後回しにしたいと考える学習者も多い。しかし、後回しにして時間をかければ覚えられるというものではない。経験上、最初に短時間で覚えたほうが、効率がよく苦勞が少ないと考える。

民間の日本語教育機関では滞在期間の短いビジネスマンなどにはローマ字による指導も広く行われている。しかし、本留学生センターで日本語を学習する学生は国費留学生の場合、最長6年日本に滞在することになる。生活の場でも研究室の中でもひらがなだけでなくカタカナ、簡単な漢字は必要である。知らなくてもサバイバルできるが、知っていれば不要な苦勞をせずに済むし、生活の幅も広がることになる。

もう一つの目的は、来日直後の不安感をひらがな教室に参加することで少しでも払拭できるという点である。自国でまったく日本語に触れたことのない留学生が日本に来た場合、周りに氾濫する日本語にストレスを感じたり、不安感をあおられたりすることが多い。しかし挨拶の言葉や自己紹介、ひらがなを学びながら日本語の「音」に慣れ、日本人同士が交わしている「おはよう」「ありがとう」「じゃ、また」などが聞き取れるようになり、自分でも口にできるようになると、最初感じていた不安が解消されることが多い。ひらがなセッションでは毎日大学に来て90分授業を受けるという、忙しすぎず、暇すぎない適度な生活リズムを作り、徐々に日本の生活に慣れる期間となっている。

2 ひらがなセッションの実際と日本人ボランティアの研修コースへの関わり

ひらがなセッションは7日間に渡って毎日90分の授業を行っている。90分のうちはじめの30分は日本語を担当する教師が50音図のシステム、促音、長音といった特殊拍の表記、挨拶、教室言葉の導入と口頭練習を行う。残りの60分では日本人ボランティアに協力してもらい、個別学習を行う。ボランティアは都合のよい日に参加するので、ペアになった留学生の学習状況は引継ぎシートで確認することになっている。ペアは流動的で、毎回同じ相手に教えるとは限らない。

文字の習得は母国での学習スタイル、「ひらがな」をどの程度見たことがあるかといった親疎意識、母語の文字の筆運びとの差異、また入国時期のばらつきなどの理由から、一斉に同じスピードで進めることが難しい。このためひらがなの読み書きの指導はできるだけ

個別に行うことにしている。

日本人ボランティアは学内では共通教育科目「日本語教育入門」受講生への呼びかけとポスターの掲示、学外は民間の日本語教師養成講座に呼びかけて希望者を募っている。過去2年のひらがなセッション参加者の内訳を以下に示す。

ひらがなセッション参加者数(人)

		2004 年春	2004 年秋	2005 年春	2005 年秋	計
留学生	学生	12	19	14	13	58
	家族、	2	2	2	2	8
	研究員	0	3	0	0	3
	計	14	24	16	15	69
日本人 ボランティア	学生	5	16	10	24	55
	一般	7	5	10	8	30
	計	12	21	20	32	85

表を見ると 2004 年度は日本人ボランティアが若干不足気味であるが、2005 年度は春、秋ともに十分な数のボランティアの参加を得ることができた。留学生は毎日参加するが、日本人ボランティアは都合のよい曜日のみの参加になるため、毎日 1 対 1 の個別指導を実現するには日本人ボランティアの登録者が留学生の数を上回っている必要がある。また、ひらがなセッションの後半には大学の授業が始まるため、後半には日本人学生の参加が激減する。したがって、学外の日本語教師養成講座を受講している一般の日本人の協力なしにはひらがなセッションの維持は難しいのが現状である。

留学生センターでは毎学期「日本語オープンクラス」を実施し、センターの日本語の授業を公開している。学内の教職員及び学生と、民間の日本語教師養成講座の受講者、他大学の日本語教員養成コース受講者を対象に、日本語の授業を見学してもらうというものである。この「日本語オープンクラス」やコース終了時の「ポスターセッション」に「ひらがな」の日本人ボランティアが参加することも多い。このような一連の行事を通して、挨拶を覚えるのがやっとだった留学生がなんとか日常的なやり取りができるようになり、ポスター発表ができるようになるといった日本語習得の過程を傍らから観察することができる。留学生にとっても再会を喜ぶと同時に自身の日本語力の向上を実感する機会になっている。

3 ひらがなボランティアの研修

ひらがなボランティアにはセッションの前の週に説明会をひらき、ここでひらがなの指導についての簡単な研修を行う。研修の際に配布する資料は本稿の末尾に掲載している。研修では具体的な指導内容に関する知識に加え、心構え、態度などにも言及している。

心構えとしては以下の点に注意している。

- ・ 教えずぎないこと：このセッションの目的はひらがなの字形、発音と提示されてい

ることばの意味を覚えることだが、例えば「うえ」ということばを覚えたら「した」は何というのか英語で質問する留学生がいる。それは教えてもかまわないと思うが、「中」「前」「後」「ななめ前」「向かい側」などと拡張しすぎると、それは覚えることにつながっていくとは思えない。また「机の上に本があります」といった文の提示についても同様に避けたほうがよい。情報が多種多様大量になることで、覚えるべき対象から焦点がずれてしまい、効率が落ちると考えるからである。

- ・ 英会話教室にならないこと：英語の使用は制限しないが、「ひらがな教室」が「英会話教室」になってしまうことがしばしばある。例えばことばの意味を確認する練習で、「cat - ねこ」「dog - いぬ」のように英語をキューとし、日本語を答えさせようとする、日本人の英語の発音が留学生に訂正されてしまうことがある。「教えられている」というストレスの反動で「教えたい」気持ちになった留学生の中には、熱心に英語の発音の指導を始めるものも現れる。しかし、ここは「ひらがな教室」であることを忘れず、できるだけそのような状況に陥ることを避けてほしい。
- ・ 対等な関係を保つこと：日本人の中には「教える」という行為の際、「上から下へ」という意識を持つ人もいる。無意識のうちに高圧的な態度で指導したり、子ども扱いをしたりするケースも時折目にする。このセッションに参加する留学生は大学院進学を控えている学生がほとんどで、年齢も20代後半から30代と「大人」であることを忘れないよう注意してほしい。

ひらがなセッションは1対1ですすめるため、これらの問題点は表面化しにくく、また、ボランティア自身も気づかないことが多いが、できるだけ日本語担当教員が各ペアを観察して進行状況と実態を把握し、適正な指導が行われるよう助言を行っている。練習の方法などについても、研修での説明を聞いただけでは進行が困難である場合は、ひらがなセッションの際により具体的な指導をしている。

4 ボランティア参加者のへのアンケート

2004年秋のひらがなセッションではひらがなセッション終了時にボランティア参加者にアンケートをとった。この年のボランティア参加者は21名であったが、このうち14名から回答を得た。

質問事項は1.ひらがなボランティアをどこで知ったか 2.説明会はどうだったか 3.参加状況と感想 である。以下に結果をまとめる。

1.「ひらがなボランティア」をどこで知りましたか。

学内のポスター：5

学外のポスター：6（鹿児島市内の日本語教師養成機関）

知人の紹介：3

2. 説明会はどうでしたか。

よくわかった : 11

わかりにくかった : 1 (具体的に: 優先順位を明確に言ってほしい)

無回答 : 2

3. 参加してどうでしたか。

何回参加しましたか 6回 : 4

5回 : 3

4回 : 1

3回 : 0

2回 : 1

1回 : 5

時間配分 ちょうどよい : 12

短すぎる : 1

長すぎる : 0

無回答 : 1

組み合わせの方法について よい : 9

なんともいえない : 3

あまりよくない : 1

(理由: 前回の人のコメント部分が少ないのでわかりにくい)

教える内容について よい : 14

なんともいえない : 0

あまりよくない : 0

4. 感想

- ・留学生と友達になれたのがよかった。日本語を知らない人にひらがなを教えるのは大変なことだと思った。私は毎回ペアの外国人が違っていたので少し戸惑うこともあった。でも楽しかったし、いい経験になった。
- ・「がんばれ」や「おいしい」等の英語レクチャーがあればよかったなと思います。楽しかったです。
- ・Aさんはもともとひらがなのレベルが高かったので教えやすかったです。しかしBさんに教えたときはあまりよく教えられなかったので、申し訳なかったです。いい経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。
- ・初めてやってみて、日本語が外国の方にとって難しいということを感じたので、とても勉強になりました。
- ・いろいろな国の人と交流をもてたので、私も多くのことを吸収できたと思います。それと同時に人にもものを教える難しさも分かりました。

- ・(留学生によって)できることの差がありすぎて困りました。それから引継ぎのメモをもう少し詳しく書いてもいいかもしれません。
- ・また参加したいと思いました。「しゃ」「きゃ」などの発音を教えるのが難しかった。
- ・人によっては進行状態が違い、時間が足りないこともあった。また、機会があれば参加したい。
- ・日本語があまり通じないのでコミュニケーションをとるのが大変でした。伝わっているのか不安に思いつつ進めてしまいました。

日本人ボランティアのセッションへの参加は多い人は6回で、これはセッションの期間ほぼ毎日指導に当たってもらったことになるが、少ない人は1回のみ参加となっている。このようにセッションの期間中にも経験の差が生じることもある。

また感想を見ると「やりがい」と「難しさ」の両方を感じている人が多いことが分かる。ペアになった留学生に応じて方法を工夫しなければならないことの困難点を上げている人が多く、短期間のボランティアとはいえ、指導力をどのように養成していけばよいのか今後の課題である。

5 まとめ

ひらがなセッションは日本語コース開始前に行うべき必須事項であるが、毎回ボランティアの確保、養成には不安定要素がある。半期に一度特定の期間に集中して行うため、継続して参加するボランティアは少なく、每期新しいボランティアを募集している。セッション途中からボランティアとしての参加を希望する場合もあり、ボランティアが少ない場合はその都度研修を行い、参加してもらおうということをしている。参加を予定していたボランティアが来られなくなったり、逆に予定外の人に来てしまったりということもよくある。留学生も、何人来るのか、蓋を開けてみるまでは分からないのが現状で、一回のセッションに来た日本人の数が留学生の数を大きく上回ってしまい、留学生一人に日本人二人という状況になってしまったこともある。

課題はさまざまであるが、ひらがなセッションを留学生にもボランティアにも充実したものにするための方策を今後も考えていきたい。

(留学生センター 助教授)

《資料》 ひらがなボランティア指導の手引き

ひらがなクラスの流れ

時間：12：50～14：20

12：50～13：15 講師による口頭練習

日本語のあいさつ 教室のことば 発音と表記

13：15～14：15 ひらがなレッスン

日本人ボランティア：留学生

→できるだけ1：1になるように！

14：15～14：20 ひきつぎ表記入 まとめ

講師による口頭練習

12：50～13：15 講師による口頭練習

日本語のあいさつ 教室のことば 発音と表記

このクラスに参加する留学生のほとんどは来日直後で、自国で日本語学習の経験がないため、日本語のあいさつを紹介するところからはじめます。

1) 発音と表記

「きって」「やっぱり」などの促音、

「おとうさん」「せんせい」などの長音の表記上のきまりを指導します。

2) 教室のことば

「書いてください」「読んでください」といった日本語の教室で使う指示の言葉を練習します。

○ 後半の指導は1：15ごろからですが、できるだけ12：50からの講師による口頭練習から参加してください。

後半の1：1の指導の際に使う指示の言葉やどのようなレベルの日本語で話せばよいか、参考になると思います。

教室のことば

「はじめましょう」「おわりましょう」「やすみましょう（休憩しましょう）」

「わかりますか」「はい、わかります」「いいえ、わかりません」

「質問がありますか」「リピートしてください」「もう一度」

「書いてください」「読んでください」「聞いてください」「見てください」

ひらがなの指導 50音図

1) 50音図

子音+母音の組み合わせであることの確認をします。ローマ字がついているので学習者は比較的すらすらと読みますが、「ひらがな」を読んでいるわけではありません。

2) 子音：「さ行」「た行」 行の中に異なる子音があります。

さしすせそ→sa ~~si~~ su se so
shi

たちつてと→ta ~~ti~~ ~~tu~~ te to
chi tsu : 難しい発音

ひらがなの指導

1) 字形

- 字形はハネ、はらい、とめまで全て正確にできなくても、全体の形が整っていればOKです。
 - ただし、紛らわしい、読めない、不正確な字形は直してください。
- 例：「い り」「れ ね わ」「め ぬ」「く へ」「あ お」

2) 書き順

- 基本の右から左、上から下の筆運びは徹底させてください。
- 非漢字圏の学生は 下から上、左から右への線を書くことが多いです。
- 書きあがった文字の字形が正しくても、全く逆の書き方をしている学習者もいるので
要注意！

3) 教材 アルク「日本語の教え方スーパーキット」を使用